

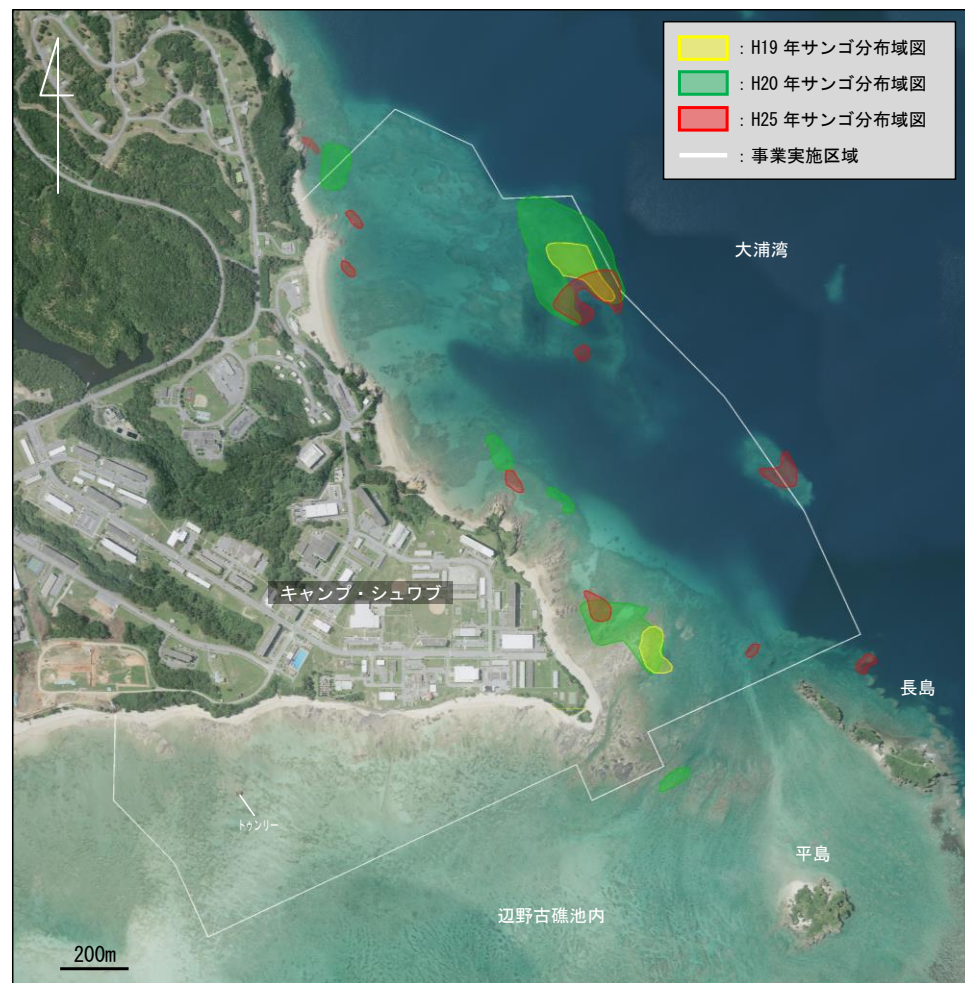
サンゴ類の分布域について

平成29年7月

沖縄防衛局

- 平成19年度からの調査におけるサンゴ類の分布域には、経年変化が見受けられるところ。
- 平成26年度に移植対象分布域調査の対象とした平成25年度分布域は、平成19、20年度に比べ、分布域の変化が見受けられる。
- 平成25年度は、夏季の高水温に伴う白化現象と、10月の台風来襲に伴う攪乱(損傷)により、サンゴ分布域の一部が影響を受けたと推測される。
- 平成28年度は、調査対象海域において、まとまった白化はみられなかった。

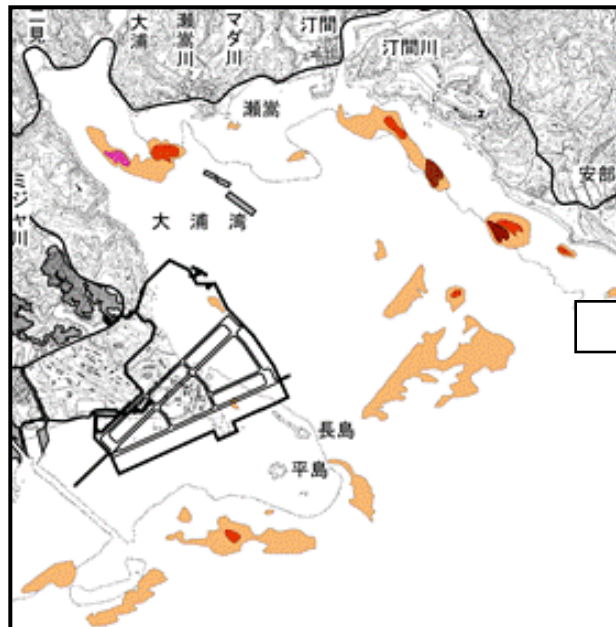
- ・サンゴ類の主な分布域は、辺野古崎から久志にかけてのリーフエッジ周辺、大浦湾では湾口部、湾奥部及び湾東部で、埋立区域内に生息するサンゴ類は比較的少ない状況にある。
- ・過去のサンゴ類の分布域には、低被度域を含めた全体の分布範囲や比較的被度が高い範囲に大きな変化はみられないが、部分的には自然変動によるものと考えられる変化が確認されている。
- ・埋立区域内における平成25年度のサンゴ類分布域に変化がみられるのは、夏季の高水温に伴う白化現象と、10月の台風来襲に伴う攪乱(損傷)により、分布域の一部が影響を受けたことによるものと推測される。
- ・平成28年度は、石垣島と西表島の間にある石西礁湖で大規模な白化がみられたが、本調査海域では、まとまった白化はみられなかった。



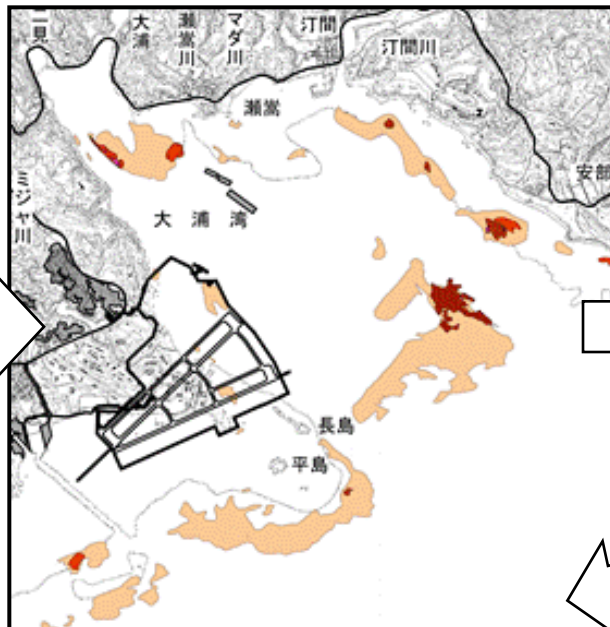
図：過年度のサンゴ類分布域の重ね合わせ(平成19、20、25年度)

参考：サンゴ類分布域の変遷(平成19～23年度)

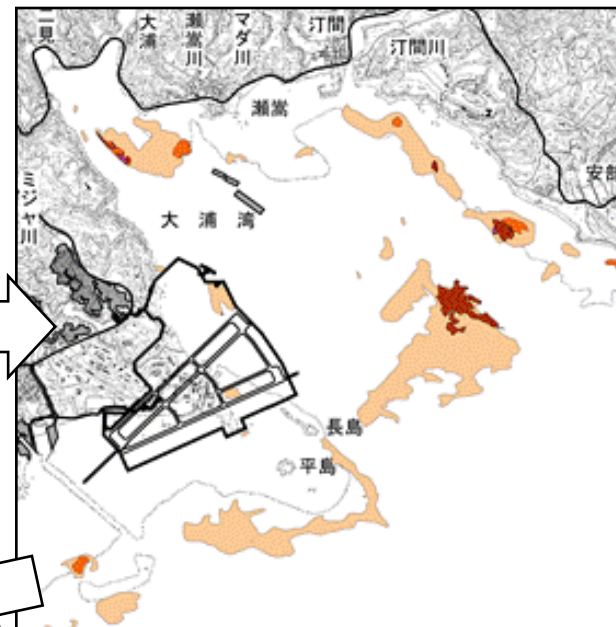
【平成19年度】



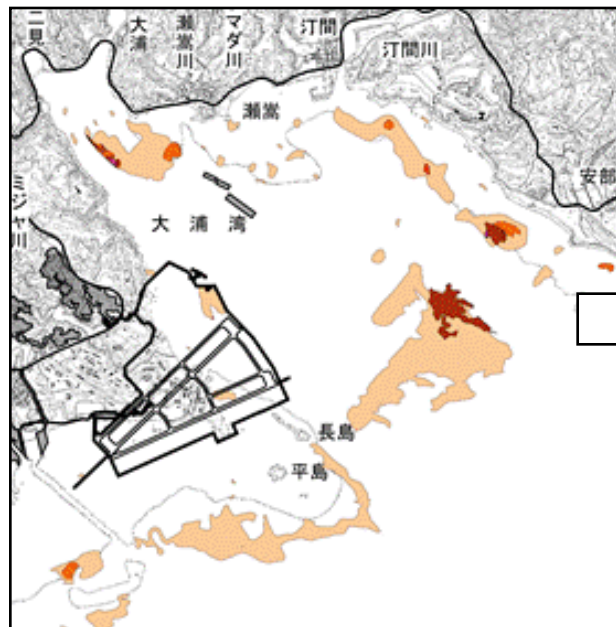
【平成20年度】



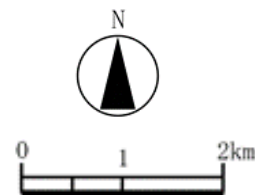
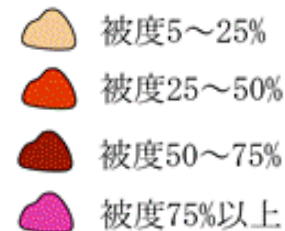
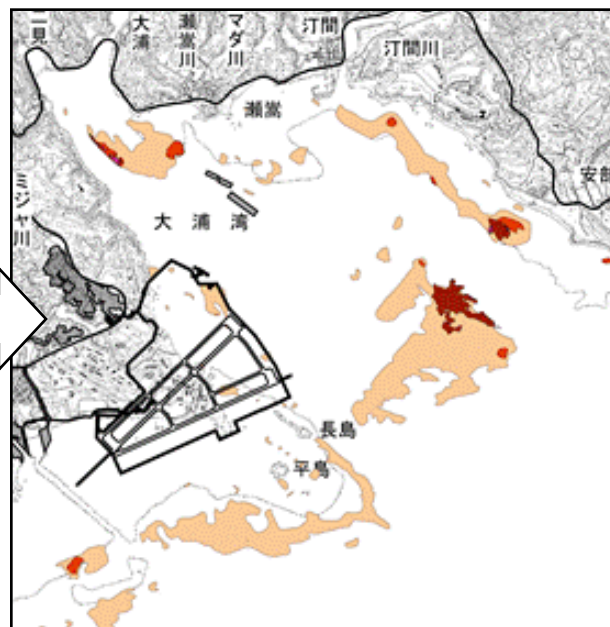
【平成21年度】



【平成22年度】

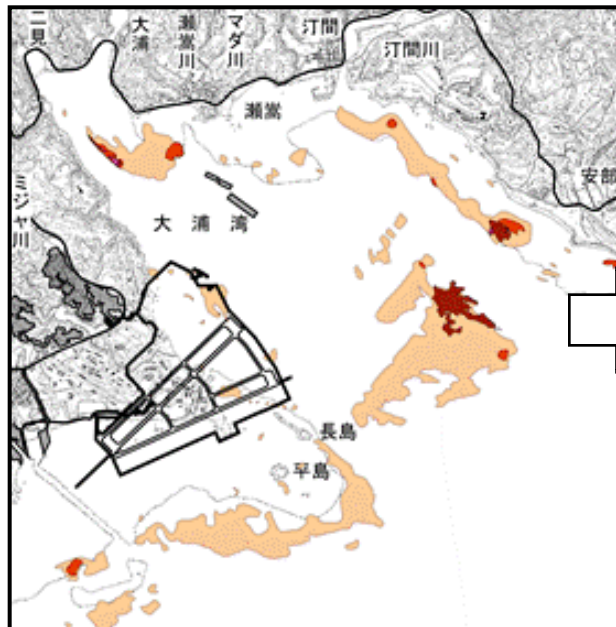


【平成23年度】

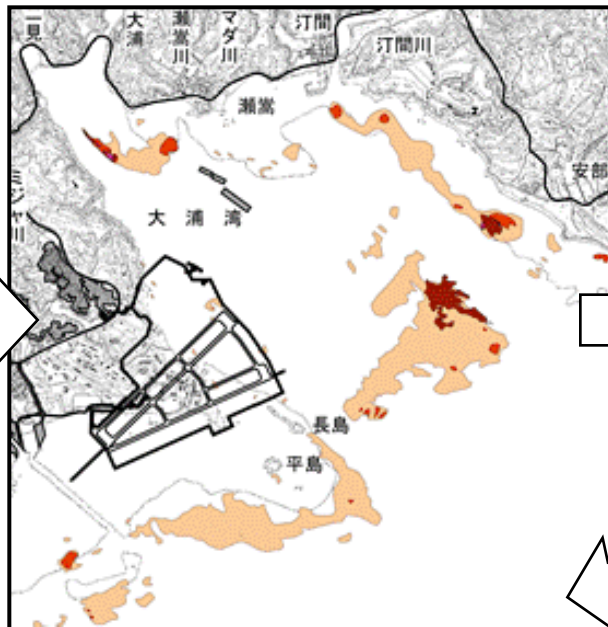


参考：サンゴ類分布域の変遷(平成24～28年度)

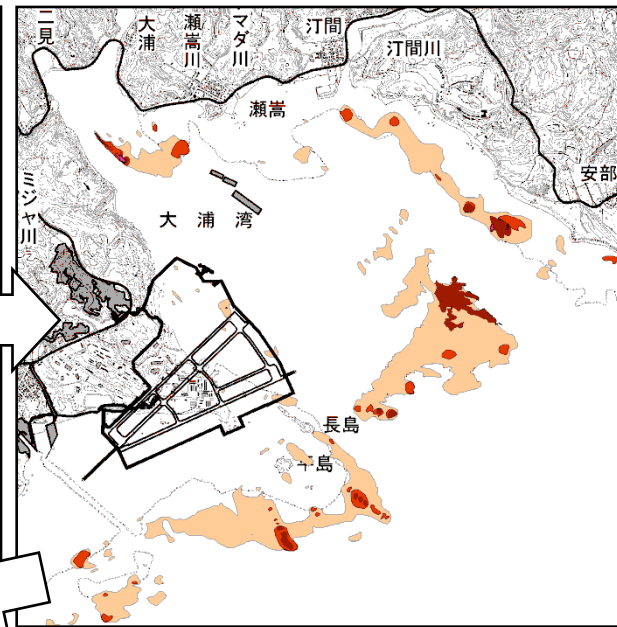
【平成24年度】



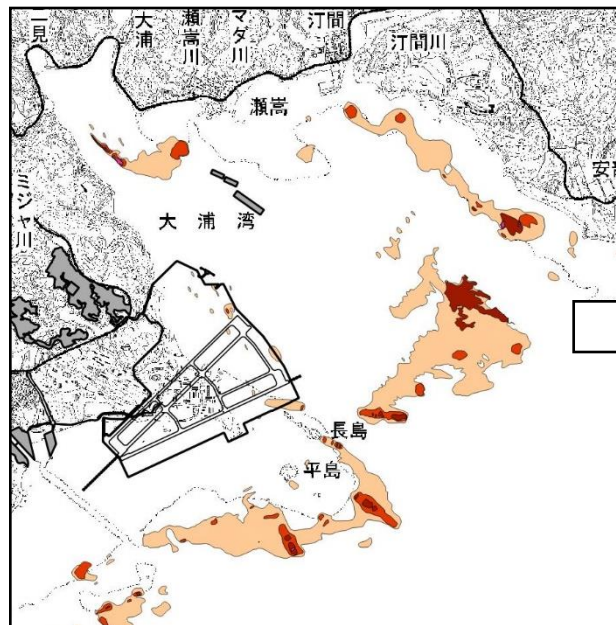
【平成25年度】



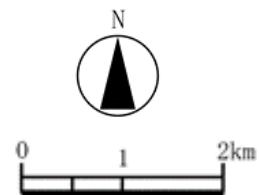
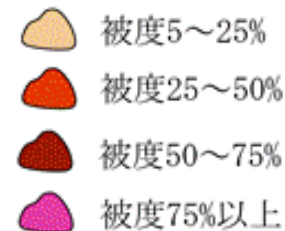
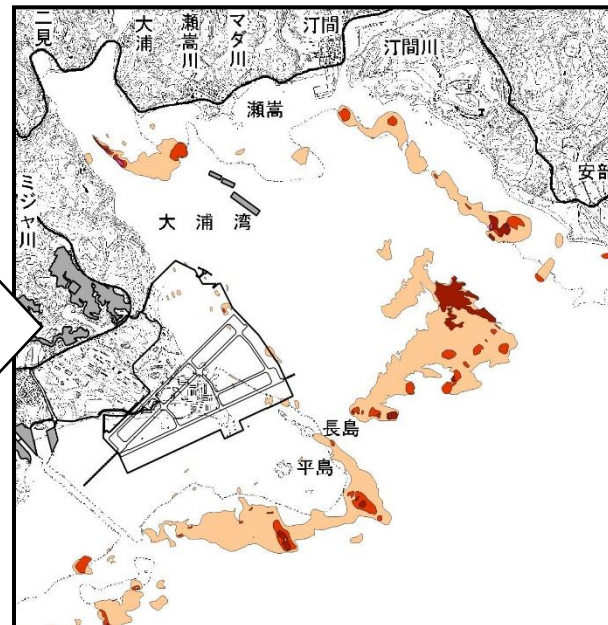
【平成26年度】



【平成27年度】



【平成28年度】



○サンゴ類のライン・スポット調査において、改変区域内で被度5%以上のサンゴ類の分布が確認された場合には、移植対象分布域調査を実施し、新たに『移植対象の分布域』を設定することとしたい。

- ・平成19、20、25年度のライン・スポット調査結果に基づき平成26年度に移植対象分布域の調査を実施し、その結果を踏まえて小型サンゴ類74,300群体、大型サンゴ類23群体の移植・移築計画を第4回環境監視等委員会（平成27年4月9日開催）において報告。
- ・その後、平成28年度まで継続的に行ってきたライン・スポット調査により、被度5%以上のサンゴ類の分布域の変化を確認。
- ・このことから、サンゴ類の移植・移築前のライン・スポット調査の結果を踏まえた移植対象分布域の調査を実施し、新たに『移植対象の分布域』を設定した上で、当該分布域内について移植を実施することとしたい。

【参考】：移植対象サンゴ類の選定基準 [第4回環境監視等委員会(平成27年4月9日開催)]

- ①小型サンゴ類：被度5%以上で0.2ha以上の規模を持つ分布域の中にある長径10cm以上のサンゴ類。
- ②大型サンゴ類：単独であっても長径が1mを超える群体。

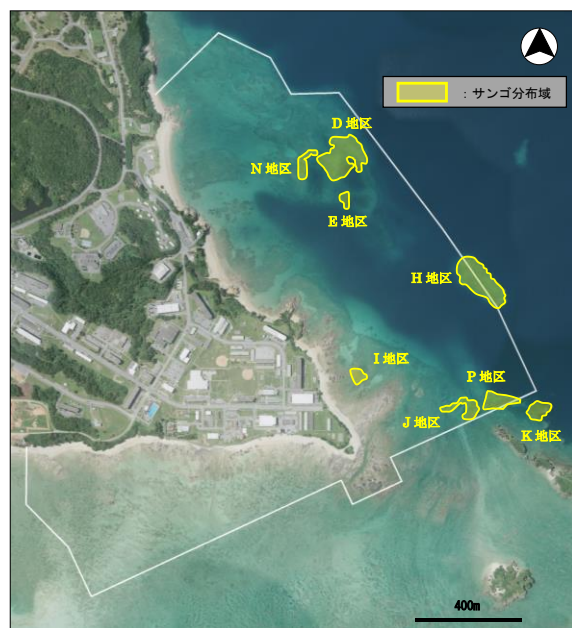


図1：小型サンゴ類の移植対象分布域
(第4回環境監視等委員資料)

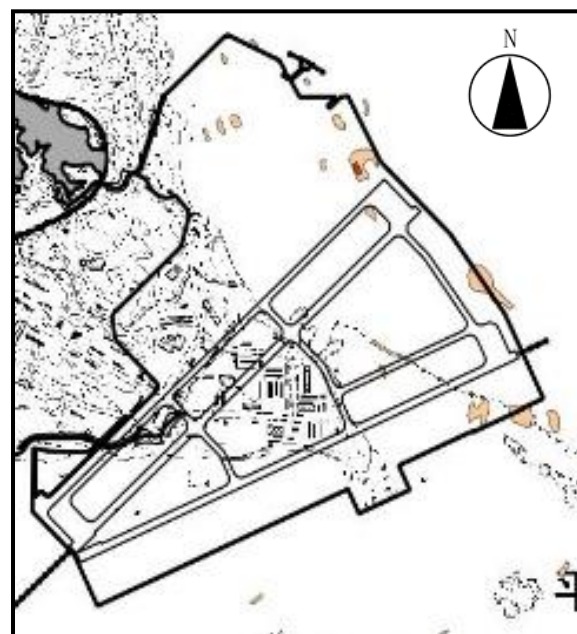


図2：サンゴ類の分布域(平成28年度)